課題解決勉強会
ミット寺子屋

課題解決先を提案しあう児童らと見守る柏青年会議所メンバー

われる。毎年開かれるもので、子どもたちに地域課題について考えてもらい、未来の担い手育成を狙う。夢サミットに先立ち、20日に開かれた勉強会「寺子屋」では、柏市の地域課題の解決策「アクションプラン」を市内各校から集まった12人の児童がまとめた。

「寺子屋」はこれまで3回開催。参加者は、柏青年会議所が柏市教育委員会を通じて呼びかけた。児童12人を評議員とし、課題抽出から解決策提案、発表用資料（パワーポイント）の作成方法まで同会議所が指導。島田貴敬専務理事によると、「環境」「ルール」「不便」をテーマにそれぞれ3～4人が「柏の未来」について考えた。

ポイ捨てのないまちづくりや不便を集約し、改善・充実させるまちの機能などが提案された。柏第三小学校の蓮子督人君（6年）は「答えのない問いに対する自分なりの回答を発表する機会は学校にはないので楽しめた」と満足げ。発表に向けて「自信をもって、伝えたい」とした。

「柏こども夢サミット」は午後1時に開始される。

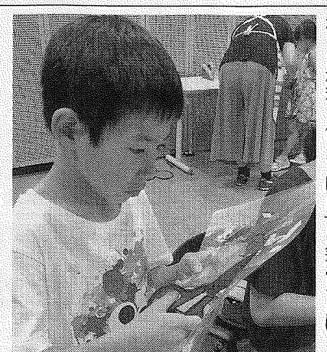
モビール作りに2時間没頭
こどもワークショップ

夏休みこどもワークショップ「すけすけモビールをつくろう」が17日にアミュゼ柏で開かれ、親子連れ40人が参加した。東京芸大出身「sampo」の武藤舞子さん（28）と津田活子（28）さんが講師をつとめ、色紙やクリアファイル、ビーズなどの身近なものを材料にした工作ワークショップを行った。

工作は、アミュゼ柏のガラス張りの外観をイメージして、「すけすけ」をテーマに発案。「sampo」の2人は「身近なものでも材料になること、工作する楽しさを知ってほしい」との思いで4回目の開催に至った。試作は何度もしたが、「想像を超える作品が完成したので驚いた。大満足」と津田さん。

参加した矢萩翔大君（8）と日菜さん（5）、雄大君（2）の3兄妹は、はじめてのモビール作りに苦戦しながらも完成させた。翔大君は「絵を描いたり、色紙をちぎったり、とにかく楽しかった」と満面の笑み。スイカの絵を完成させた雄大君は、母の美智子さんにみせて満足げ。美智子さんは「幼児も一緒に参加できるのがありがたい。先生たちが丁寧に教えてくれるので安心」と話した。

2回目の参加となった荒川美桜さん（6）は、図画工作の授業が得意で、様々な材料を使って向日葵を表現。「楽しかった」と自分の作品の出来栄えに笑みをこぼした。


モビールのパーツ作りに没頭する矢萩翔大君

親子連れで賑わう
「おやじの日」ウィーク

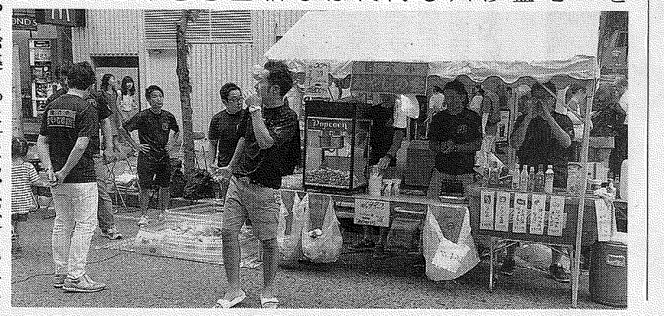
「おやじの日」ウィークが11日にハウディモール周辺で開催され、おやじの活動紹介ブースや市内おやじ団体による販売、ウッドデッキでのパフォーマンスなどが行われ、大勢の人で賑わった。

「柏おやじダンサーズ」の踊りや「swing beat team♪HIROSHI」の宇宙戦艦ヤマトや銀河鉄道999などの演奏で、ウッドデッキ周辺を盛り上げた。

ハウディモールは、マツダのコスモスポーツやランボルギーニのカウンタックなどのクラシックカー8台を展示。展示を主催した中嶋美香さんは「柏のおじさんたちはパワフルでおもしろい」と絶賛。世代関係なく、「クラシックカーをみて、話題作りのきっかけになってくれれば」と中嶋さん。コスモスポーツの加藤義明オーナーは「年配の人たちが口を揃えて〝懐かしい〟と言って、思い出話を聞かせてくれる。自分も若い時代を思い出すことができた」と笑顔で語った。

柏第六小学校おやじの会は、初のイベント参加。ポップコーンやジュースなどの販売、ヨーヨー釣りを行い、ハウディモールを盛り上げた。柏六小おやじの会の高山典丈代表(44)は「おやじの力で柏を盛り上げていきたい」と思い、昨年4月に募集したところ、元気ある27人のおやじが集まったという。「〝できるときに、できる人が、できることをする〟をモットーに、楽しく地域の活性化につとめていきたい」と語った。手伝いをしていた典丈代表の息子、海翔君（7）は「大きくなったら、お父さんみたいに人の役にたつことをしていきたい」と元気よく話した。

ヨーヨー釣りに参加した村野由直君（7）は「難しかったけれど楽しかった」と満面の笑みで話した。


呼び込みをしている柏六小のおやじの会メンバー

催しもの案内

【リボン館】

◇着物からカーディガンジャケット＝9月6日、午前10時～午後4時。定員10人。100円。

◇リバーシブルショートベスト＝7日、午前10時～午後4時。定員10人。200円。

◇EMぼかしを使った堆肥化講座＝9日、午前10時～午後0時。定員15人。無料。

◇古布からおしゃれハット作り＝13日、午前10時～午後4時。定員10人。350円。

◇ワイシャツから可愛いエプロン＝14日、午前10時～午後0時。定員10人。100円。

◇自転車の手入れ修理方法教室＝17日、午前10時～午後4時。定員10人。50円。

◇Tシャツからバッグ（新講座）＝22日、午前10時～午後4時。定員10人。300円。

問い合わせ：7199－5082

【市民ギャラリー】

◇包丁とぎ教室＝24日、午前10時～午後0時。定員12人。100円。

◇なんでも修理教室＝24日、午後1時～3時。定員8人。無料。

問い合わせ：7157－0280

◇第16回柏志会水墨画会＝9月2日～5日、午前10時～午後6時（初日と最終日は時間変更有）。柏志会会員の水墨画を約50点展示。

◇第21回ロイヤルフラワーアレンジメント花展＝7日～9日、午前10時～午後7時（初日と最終日は時間変更有）。生花で作った作品を展示。

◇第44回虹の会展＝10日～13日。午前10時～午後6時（初日と最終日は時間変更有）。身近な風景や静物などを油彩、水彩、アクリル、パステルなどで約40点展示。

◇柏彩友会水彩画展＝14日～17日。午前10時～午後7時（初日と最終日は時間変更有）。会員が出品。

◇藤心陶芸センター29年度展覧会＝18日、午前9時～午後4時30分（初日と最終日は時間変更有）。藤心陶芸センターに通う生徒の作品を展示。

◇第19回写真展シリーズ写真同好会＝22日、午前10時～午後4時（初日と最終日は時間変更有）。約60点をシリーズ別に展示。

◇全日本写真連盟柏支部第19回写真展＝27日、午前10時～午後4時（初日と最終日は時間変更有）。写真作品をサイズのプリントで点展示。

ポールウォーキングららぽーと柏の葉で

整形外科医が開発したポールウォーキング教室が9月11日と25日にららぽーと柏の葉北階で開催される。ポールウォーキングは、整形外科医がメタボシンドローム、ロコモティブシンドローム症、ロコモティブシンドローム対策として開発したもので、転倒防止を視し、安心・安全・誰でも・いつでも・軽に始められる。歩くことに少しでも健康寿命を延ばしたいと考えているリタイヤした団塊世代の健康づくりと居場所づくりを考えている人などフレイル予防にはポールウォーキングが最適。

午前10時15分～午後1時15分。専用ポールの人は300円（テント、小冊子、保険料含む）。専用ポールを持っていない人は600円。

優勝を喜ぶ尾身恵二郎君、鈴木啓太君、尾身応三郎君（左から）

「第14回文部科学大臣杯小・中学校囲碁団体戦」の県大会が6月25日に浦安中央公民館で行われ、小学校の部で「柏囲碁スクール」に通う柏第三小学校が初優勝した。当日は、小中学校25チーム75人が参加し、3人1組で対局した。

「柏囲碁スクール」の高崎芳紘代表（76）は「囲碁の楽しさを子どもに伝えたい」との思いから、25年ほど前にはじめた。週2回、ボランティアで子どもたちに教えている。

主将の尾身恵二郎（けいじろう）君（6年）は柏囲碁スクールに通い始めて4年。漫画の「ヒカルの碁」を読んで興味をもったという。4回目の県大会出場で初優勝し「やっと優勝できた」と笑みをこぼした。

尾身応三郎（おうさぶろう）君（4年）は「勝っても負けてもおもしろい」と、囲碁の楽しさを語り、「個人でも優勝できるように頑張りたい」と意気込んだ。

鈴木啓太君（5年）は「相手のペースに流されないよう、平常心で臨んだ結果」と満足げ。囲碁スクールに通うことで、「多くの友達ができた。囲碁も友達も大切にしたい」と話した。

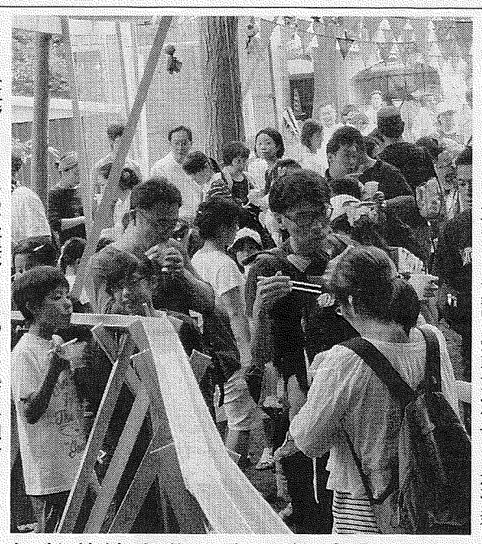
高崎代表は「感覚が優れている恵二郎君、堅実な応三郎君、ねばり強い鈴木君」と、ひとり一人の能力を評価し、「囲碁が盛り上がってくれればうれしい」と話した。

全長27メートルの巨大流しそうめん
地域活性化目指し

「柏スーパー流しそうめん」が20日に増尾で開かれ、およそ400人の親子連れで賑わった。増尾の自然の中で行う全長27㍍の巨大流しそうめんは昨年に続き2回目で、そうめんは昨年の3倍にあたる65㌔を用意した。協力業者含む40人で、新たな取り組みとして、かき氷の販売、スーパーボールすくいやわなげなどのあそび場を充実させた。700個用意したスーパーボールは1時間でなくなるなど、大盛り上がりだった。

主催の株式会社クリエすずき建設の鈴木一功（かずのり）代表（37）は、地域の活性化を目指し、「元気いっぱいの賑わうまちをつくりたい」との思いから企画。

昨年に続き参加した白石哲彦さん（66）は「孫が今日を楽しみにしていた。孫が親になったときに、流しそうめんが増尾の恒例行事になってくれていればうれしい」と話した。白石さんの娘の佐々木祐子さん（33）は「親と子ども3世代が一緒に参加できるので、来年も楽しみにしている」と笑顔で話した。


全長27メートルの巨大流しそうめんを楽しむ親子ら

プロムナード
「夏休みの

柏発東武アーバンライン大宮行き、向かいの椅子にリュックと水筒を持った小学3年位の男子、1年位の女子、幼稚園児の男子が乗ってきた。女の子はジャンプしてつり革にぶら下がろうとはしゃぎ出す。弟は椅子にひざ乗りし窓の外を指差しながら「景色が見えないよ」。お行儀よく座り緊張気味な表情のお兄ちゃん、「発車したら見えるよ」と弟に、やめない妹に「静かに座って」。母親が乗ってくるのを待っているのだろう…、が電車は発車した。

親御さん放任主な？声かけたものの、ながらもアッという豊四季駅。仕方ない の事より降りなくて電車がもうすぐ停車 うという時、ドアが つ私の背後で「あ

あちゃんいた！」いちゃんもだ！」 ける子どもらの歓声 かった、違う車両に 乗車していた祖父母 会できたか。

しかし、停車して 開いた瞬間、3人は をとび降り、階段を